**通級による指導実践事例　高等学校No.１**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・物事に優先順位をつけながらスケジュールを立て、それを自己管理する方法を習慣化する  ・卒業後を意識しながら、日常生活をうまく管理するための方策を具体化する | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ４月～11月 | |
| ・まじめな性格で粘り強く取り組むことができ、論理的に物事を考えることが得意である  ・持ち物、時間、スケジュールの管理が難しく、忘れ物が多い  ・優先順位をつけるのが不得意なため、日々の予定が立ち行かなくなることがある  ・睡眠時間が後ろにずれがちで、特に休日明けの遅刻が目立つ | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 健康の保持 | | | 生活のリズムや生活習慣の形成 | | | |
| 心理的な安定 | | | 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | | | |
| 本事例のキーワード | | ＰＤＣＡサイクル　スケジュール管理　生活習慣 | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・自分で考えることを習慣化させるため、付箋に「ＴｏＤｏ」を書き出す時間を十分にとる  **②について**  ・教員とともに分類しながら、リストアップ漏れがないか確認しておく  **③について**  ・「ＴｏＤｏ」の量や期限などをふまえ、何を優先するか見通しを立てながら計画を立てることを意識させる  ・作成した「ＴｏＤｏ板」を活用するためにはどうすればいいか、自分に合った方法を考えさせる | | | | ・リストアップすることで自分の抱えている「ＴｏＤｏ」が可視化され、どの順にいつ取り組めばいいかという見通しを持てることが増えてきた  ・作成した「ＴｏＤｏ板」をスマートフォンで撮影し、それを見て「ＴｏＤｏ」を確認することが習慣化されてきた |
|  |  | |
| **スケジュールの管理方法を学ぶ** | | |
| **①「ＴｏＤｏ」のリストアップによる全体量の把握**  ・付箋に自分がしなければならないことを書き出し、その種類や量、期限を把握する  **②「ＴｏＤｏ」の分類**  ・①の付箋を授業関連、生活関連、入試関連、などの項目に分類整理し、「ＴｏＤｏ板」を作成する*【参考Ａ】*  **③「ＴｏＤｏ」の優先順位付け**  ・何から優先して行うべきかを考え、１週間の計画を立てる。 | | |
| 【第二段階に向けて】  ・スケジュール管理方法の定着を図りつつ、他の生活上の課題(睡眠、整理整頓、足がよくつる等)に着目し、その解決策を考える機会を設ける |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・「ＴｏＤｏ板」の活用ができているか、定期的に振り返りを行う  **②③について**  ・成功体験を多く積めるように、取り組みやすい内容も含めて、さまざまな生活上の課題を列挙させる  ・生徒が納得して取り組めるよう、教員からはアドバイスにとどめ、どの解決法を試すかは生徒自身に決めさせる（たとえそれが失敗しそうだとしても口を出さない） | | | | ・「日中眠くなる」という課題に対して、始めは即時的な解決法を実施したが、その場しのぎであることに気づくことができた  ・試行錯誤を繰り返すうちに、生活リズムを整えて睡眠の質を高める必要性に気づき、自分で探した「眠育」に関する資料を参考にしながら解決法を実践できた  ・「プリントをなくす」という課題に対し、ＰＤＣＡサイクルを重ねることで、机の整理の必要性に気づいた |
|  |  | |
| **生活上の課題を認識し、解決のために試行錯誤する経験を積む** | | |
| **①スケジュール管理の定着**  ・「ＴｏＤｏ板」活用を継続、定着する  **②生活上の課題を認識する**  ・日常生活を振り返り、困っていることやうまくいかないことを確認する  **③課題解決の為の試行錯誤をする**  ・ＰＤＣＡサイクルに則って課題解決を図り、成功体験を積み重ねる  *【参考Ｂ】*  ・図書館やインターネットを利用して改善方法を模索する | | |
| 【第三段階に向けて】  ・うまくいった解決法を習慣化するように働きかける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①②について**  ・今まで蓄積した解決法が今どうなっているか定期的に確認し、うまくいっていないものがあれば、その原因と代替案を考えさせる | | | | ・「ＴｏＤｏ板」を活用したスケジュール管理を継続できるようになった  ・生活上のさまざまな課題が改善されたという実感を得、ＰＤＣＡサイクルに則った課題解決を続けたいという意欲を持つことができた  ・卒業後の日常生活を具体的にイメージした方策を立てることが今後の課題である |
|  |  | |
| **獲得した解決方法の定着** | | |
| **①課題解決のための試行錯誤の継続**  ・課題解決を図るときに、ＰＤＣＡサイクルを意識できるようになる  **②自分で考えた解決法の定着**  ・うまくいった解決法を継続し、習慣化することで、定着を図る | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・授業の振り返りシートに、「結果がついてきているので、この調子でＰＤＣＡを続けていけたら」と意欲的な感想を記入しており、自分で考えて実行することへの自信が見られるようになった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.2**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・伝わりやすい説明のポイントを意識した話し方ができるようになる  ・長文を書くときにも伝わりやすい説明のポイントを意識することができる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ２年次10月～３年次３月 | |
| ・周囲の状況を察することができず、トラブルのきっかけになる発言をしてしまうことがある  ・自分の思いを伝えることはできるが、興味・関心の強い細部から話そうとするので、相手に話の全体像がなかなか伝わらないことがある  ・検査では言語理解や概念化に弱さがあり、言葉の意味や使い方を知識としては理解しているが、書くときや話すときに間違えることがしばしばあり、事柄を関連付けることの苦手さがある  ・考えを長文にすることができず、「卒業研究」の単位取得に不安を感じている  ・卒業後の進路は、福祉的就労、障害者職業能力開発校、就労移行支援事業所を希望 | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 環境の把握 | | | 感覚や認知の特性についての理解と対応 | | | |
| コミュニケーション | | | コミュニケーションの基礎的能力 | | | |
| コミュニケーション | | | 言語の受容と表出 | | | |
| 本事例のキーワード | | コミュニケーション　話す　書く | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・説明者と聞き手の両方を経験し、どのような説明がわかりやすかったかを意見交換することで、聞き手の受け止めに差があることに気づかせる  **②について**  ・カテゴリーの立て方の重要性を強調しながら取り組ませる  ・必要に応じて白紙の用紙や、情報の数に合わせた表を記載した用紙を渡し、情報を整理しやすいようにする | | | | ・自分がふだんの会話で、関心を持った細部から話し始めてしまうため、聞く方は全体像がつかめず困っていたということに気づけた  ・「全体像から考える」ことと合わせて、「共通項でまとめる」という整理方法の重要性が確認できた  ・情報量が多くなると共通項でまとめることが難しくなり、支援が必要である |
|  |  | |
| **説明方法による伝わり方の差や、考えを整理する方法を経験する** | | |
| **①自分の説明方法の特徴を知る**  ○図形伝達ゲーム*【参考Ａ】*  ・自分の説明方法が、相手にどのように受け止められるかを知り、他のやり方と比較する  **②カテゴリーに分類しながら考えをまとめる**  ○情報整理ゲーム*【参考Ｂ】*  ・共通の特徴で分類しながら考えると整理しやすいことを体験する | | |
| 【第二段階に向けて】  ・確認したポイントを身につけるための実践機会を設ける |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・事前に説明内容や手順を整理し、伝わりやすい説明のポイントが押さえられているか、確認させる  ・通常の学級担任に課題のねらいを説明し、実践のポイントを理解してもらっておく  **②について**  ・文字を読むより、動画を見て理解する方が得意であることを生かして、まずルール説明の動画を見せ、ポイントを確認させる  ・説明の流れを可視化するために、ワークシートを使用する*【参考Ｃ】* | | | | ・一番関心のある細部から話し始めてしまいそうになる気持ちを抑えて、全体や目的から話すことを意識して説明することができた  ・ルール説明の動画が、カテゴリーごとに編集されているということに気づくことができ、それを参考に説明の構成をスムーズに組み立てることができた |
|  |  | |
| **「伝わりやすい説明のポイント」を意識して実践する①** | | |
| **①実践Ⅰ**  ・「卒業研究」で使用するアンケートを、全体や目的から話すことを心がけながら、通常の学級で依頼する  **②実践Ⅱ**  ・カードゲームのルールや進行について、「全体や目的から」「カテゴリーに分けて」話すことを心がけながら、10人程度の集団に説明する | | |
| 【第三段階に向けて】  ・短い文章での説明では、伝わりやすさのポイントを押さえることができたので、今後はさらに長い文章に挑戦する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | ・はじめに書く内容をグルーピングして並べ、全体がひと目で分かる構成図を作成させる  ・これまでの実践をいかすことを意識させる | | | | ・これまで学んだ説明のポイントに則って文章を組み立てようとする姿勢が定着した  ・情報量が多くなると、ひとりで整理するのが難しい  ・困ったときに、どこを支援してもらえれば達成できるかを説明できるようになるのも、今後の課題である |
|  |  | |
| **「伝わりやすい説明のポイント」を意識して実践する②** | | |
| **実践Ⅲ**  ・説明のポイントを押さえながら、卒　業研究論文（５千字以上）の構成を考える | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・「難しそうだったけど、カテゴリーでやったらできた」「（見通しを持って書くことができ）早く字数が増えるようになった」など、構成図を元にすればひとりでも長文を書くことができるという自信を持つことができ、「全体から」「カテゴリーで」というキーワードだけで、前向きに取り組もうという姿勢を見せるようになった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.3**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・自分の考えを論文などのまとまった文章にできる  ・論文などを作成するための、自分に合った方法を見つける | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ５月～７月 | |
| ・自分の思いや考えを正確にアウトプットすることに困難を感じており、特に書くことへの苦手意識が強い  ・他者との関わりに喜びを感じ、自分のことを積極的に伝えたい気持ちを持っている  ・聞いて理解することが得意であると自覚している  ・福祉分野での進学を志望しており、「書いて伝える」スキルを獲得したいと考えている | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 環境の把握 | | | 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と  状況に応じた行動 | | | |
| コミュニケーション | | | コミュニケーション手段の選定と活用、状況に応じたコミュニケーション | | | |
| 本事例のキーワード | | 作文　聴覚優位　音声アプリ | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・自分の考えをいきなり文章に起こすのではなく、「話す」、「キーワードをメモする」などのステップを設けることで、考えが整理できることに気づかせる | | | | ・話すことが好きなので、集中して取り組むことができた  ・メモの文字が読みにくいこと、箇条書きしたキーワードを文章として構成しようとするとうまくできず、時間がかかってしまうことが課題である |
|  |  | |
| **自分の考えを表す方法を探す** | | |
| **①マインドマップを描く**  ・テーマに沿って教員と会話しながら、マインドマップを作成する  *【参考Ａ】*  **②伝えたい内容を整理する**  ・①で作成したマインドマップを元に、自分が伝えたい順番に、キーワードを箇条書きにする*【参考Ｂ】*  ・キーワードをもとに文章を構成する | | |
| 【第二段階に向けて】  ・会話によって整理した内容を文章として表しやすくするために、機器の活用を検討する |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | ・音声入力の練習を繰り返し、アプリ　の使いやすさや、継続使用できそうか確認する  ・通常の学級でもスマートフォンを活用できるよう、授業担当者と調整する | | | | ・音声入力アプリを使用することで、400字程度の文章を何度も作成できるようになった  ・練習を繰り返すうちに、音声入力時に考えがより整理された状態で話せるようになった |
|  |  | |
| **自分の考えを表すのに適した方法を知る①** | | |
| **実践Ⅰ「読書感想文を書く」**  ・スマートフォンの音声入力アプリを活用し、400字程度で読書感想文を書く  ・音声入力した内容が、自分が伝えたかった内容になっているかどうか、音読して確認する | | |
| 【第三段階に向けて】  ・400字以上の文章を書けるようになるために、パソコンを使用して編集する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | ・内容ごとに段落をつけることに留意  させる  ・５Ｗ１Ｈの要素を入れて、具体的に書くよう促す  ・文書化したものは、必ず読み返して確認させる  ・通常の学級でもパソコンを活用でき  るよう、授業担当者と調整する | | | | ・論文課題を約3000字まで完成させられた  ・自分の気持ちや考えを表す方法として、音声入力アプリやパソコンの使用が効果的であると気づくことができた  ・卒業後の進学先等で、文字入力機器の活用などの合理的配慮を求めていく力の育成が必要である |
|  |  | |
| **自分の考えを表すのに適した方法を知る②** | | |
| **実践Ⅱ「論文を書く」**  ・スマートフォンの音声入力アプリで入力した文をパソコンに送信し、編集して論文としての構成を整える | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・「できないことや苦手なことも、工夫しだいでできるようになることを実感した」と話し、「その工夫には自分の得意なことを生かすという方法があることがわかった」とふりかえった  ・さまざまなアプリケーションが、自分の困りごとの解決に役立つと知り、予定管理等にも活用するようになった。  ・この指導がきっかけとなり、他の生徒の論文作成等でも音声入力アプリが活用されるようになるなど、通常の学級での取組みに広がった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.4**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・他者と協力して目標を達成できる  ・他者の困りに共感し、自分の強みを生かしたサポートを考えることができる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | 10月～12月 | |
| ・高校生になって人の気持ちをくみ取ろうとする意識が高まったこともあり、相手の気持ちや表情などを気にしすぎるなど、人間関係に敏感になっている  ・状況に応じたコミュニケーションが苦手で、幼少期より周囲との摩擦を繰り返し経験してきた  ・人間関係における不安や自信のなさが身体症状に表れることがある  ・困っている人を助けたり、積極的に手伝ったりすることがしたいと思っている | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整 | | | |
| コミュニケーション | | | 状況に応じたコミュニケーション | | | |
| 本事例のキーワード | | ペア学習　相手のサポート　作業の見通し　シミュレーション | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②③について**  ・「人の役に立ちたいとの気持ちが強い」という生徒の良さを生かすために、生徒２人を組ませてペアとし、協働する場面を設定する  ・生徒が自分の思いを十分伝えられるよう、必要に応じて教員が掘り下げる質問を行う  ・ペアの生徒の不安や課題に対し、自分がどんな補助をできるか考えさせる | | | | ・招待人数から準備物の量を計算し、ペアの生徒が作成したレシピを補完した  ・相手の課題を理解し、「自分には何ができるか」という意識を持つことができた  ・時間短縮のため「フードプロセッサーを使おう」と提案できた |
|  |  | |
| **作業の見通しをたてる** | | |
| **①コンセプトを考え、相手に伝える**  ・「友人を招待して食事会をする」をテーマに、どんな食事会をしたいか考え、ペアの生徒に伝える  **②他者と協働して企画書を作成する**  ・いつ、どこで、何を作るか、誰を招待するかなど、具体的な企画を練る  ・食事会のメニューを調理する上で、期待することや不安に思うことをあげ、ペアで共有する*【参考Ａ】* | | |
| 【第二段階に向けて】  ・企画書の内容を実現させるために、タイムスケジュールを立て、シミュレーションを行う |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・当日の作業の見通しが立てられるよう、所要時間の目安を入れるなど、できるだけ詳細なスケジュールを考えさせる  **②について**  ・進行表は、作業中に確認しやすいように模造紙に大きく書く  ・実施のシミュレーションを通して、作業が難しかったところや時間がかかったところをチェックさせるとともに、担当教員もメモしておく | | | | ・進行表に沿って、自分の担当パートを時間通りに進められた  ・自分の作業には集中して取り組めたが、ペアの生徒が困っていることに気づくことは難しかった  ・準備時間を１時間から２時間に改めた方がいい、という提案ができた |
|  |  | |
| **シミュレーションを行い、計画の見直しを考える** | | |
| **①進行表を作る**  ・食事会の準備から片付けまで、具体的な進行表を作る  **②シミュレーションⅠ**  ・あらかじめ難しそうな作業箇所を予測して、対応を準備した上で、シミュレーションを行う  **③計画の見直しを考える**  ・計画と実施のギャップを埋めるために、進行表の修正を行う | | |
| 【第三段階に向けて】  ・自分のことだけでなく、周囲の状況や、ペアの困りに気づける工夫を考えさせる場を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①②について**  ・(1)何が難しかったか、(2)どんなふうに助けてほしいか、というパターンで話すよう伝える  ・担当教員が観察者として気づいたことをフィードバックする  ・ペアの生徒の困りについて、どうしたらタイミングよく声かけできるか、考えさせる | | | | ・進行表を確認しながら、計画通りの行動ができた  ・ペアの生徒への声かけをタイムリーに行えるよう、進行表に、「○○さん（相手の名前）に声かけ」と書いた用紙を貼り、視覚化しておく工夫ができた |
|  |  | |
| **他者に必要な声かけができる** | | |
| **①修正した進行表を共有する**  ・自分が見直した箇所や、困ったところをペアで共有する  **②助けが必要なポイントを共有する**  ・お互いに、どこでどんな助けがほしいか共有する  **③シミュレーションⅡ**  ・共有したポイントをふまえて、２回目のシミュレーションを行う | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・他者の状況を考えて、調理が円滑に進むようなアイデアをたくさん提案することができた  ・「誰かを手伝うためにはよく観察することが大切」、「実際に行動するには心がけだけでは難しいが、何か合図があればできる」と気づくことができた | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.5**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・自分がどんな場面でどんな気持ちになるか、感情のレベルを認識する  ・自分に合ったクールダウンの方法を学び、実践できるようになる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ８月～１月 | |
| ・何事にも興味関心が高く、周囲の人と積極的に関わる姿勢が見られる  ・暗黙の了解を理解することや、表情や身振りなどから相手の真意を読み取ることが難しい  ・勝ち負けへのこだわりが強く、自分にとって不本意な結果に大きな不安やストレスを感じ、パニックを起こすことがある | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整 | | | |
| コミュニケーション | | | 状況に応じたコミュニケーション | | | |
| 本事例のキーワード | | アンガーマネジメント　コーピング | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・怒りだけでなく、楽しいなどプラスの気持ちにも注目させる  **②について**  ・怒りの元となっている感情（悔しさ、焦り、劣等感、混乱など）に気づくことが、怒りのコントロールにつながることを伝える  **③について**  ・怒りにも段階があり、小さなものから爆発寸前のものまで、自分がどれくらい自覚しているか（あるいは自覚していないか）を一緒に確認しておく | | | | ・感情をレベル分けすることにより、我慢できるレベルとパニックになりやすいレベルを客観的に確認することができた  ・怒りの元となっている悔しさや不安などの具体的な感情を教員と共有することができた |
|  |  | |
| **自己理解を深める** | | |
| **①今の自分を分析**  ・「幸せを感じる時」「怒りを感じる時」を書き出し、どのような出来事と結びついているか整理する  **②感情のメカニズムを理解する**  ・ワークシートを使用して、自分がなぜそんな気持ちになるのか考える*【参考Ａ】*  **③感情のレベルを可視化**  ・幸せと怒りをそれぞれ５段階に分け、対応する言葉や場面を考える*【参考Ｂ】* | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分が怒りを感じやすい場面やきっかけに気づき、実際の日常生活で意識できるようになる |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・できるだけ最近起こった出来事を取り上げ、その時の気持ちや行動を具体的に思い出させる  ・対処行動に対して、結果がどうなったかを必ず確認しておく  **②について**  ・第一段階で可視化した感情のグラフを活用し、レベルごとで異なる対処行動が考えられることに気づかせる | | | | ・はじめは、イライラした時は「無視する」「反論する」しか挙げられなかったが、感情のグラフに沿ってレベルごとに考えるうちに「保健室に行く」「絵を描いて気分転換する」「好きな感触のものに触れて気分を落ち着ける」など、複数の対処行動を考えることができた |
|  |  | |
| **ストレスに応じた対処行動を考える** | | |
| **①現在の対処行動を整理する**  ・現在、自分がストレスを感じたときに行っている対処方法を振り返り、良い点、改善したい点を整理する  **②よりよい対処行動を考える**  ・ストレスレベルに応じて、自分に合った対処行動を考える | | |
| 【第三段階に向けて】  ・通常の学級での授業や集団活動で、自分の感情に気づき、感情レベルに応じた対処行動をとれるようになる |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①②について**  ・通常の学級の担任、授業担当者、養護教諭、保護者等と情報共有し、本人が対処行動をとる様子を観察・報告してもらうように調整しておく  ・生徒が対処行動を取った時には、結果に関わらず、対処行動を選択したこと自体を評価し、認める | | | | ・家庭におけるストレス場面に気づいて「ストレスを減らすための空間がほしい」と保護者に伝えることができ、そのための自分に合ったアイテム（室内用テント）を選択し、安心できる空間を作る工夫ができた  ・通常の学級での授業においても、自分がストレスを感じる場面に早い段階で気づき、対処行動を取ることができた |
|  |  | |
| **対処行動を実践する** | | |
| **①実践Ｉ**  ・学校外（家庭など）におけるストレス場面に気づき、レベルに応じた対処行動を取り、結果を検証する  **②実践Ⅱ**  　学校生活におけるストレス場面に気づき、レベルに応じた対処行動を取り、結果を検証する | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・自分で考えた複数の対処行動を、通常の授業やクラス活動において、積極的に活用する様子が見られた  ・自分が納得できない場面や、不本意な結果があっても、その場で感情を爆発させず、保健室や通級指導教室まで我慢するなど、自分で気持ちをコントロールする場面が増えた  ・保健室を訪れた際、「ちょっと落ち着きたいので来ました」「もう大丈夫なので(教室に)帰ります」など、クールダウンの必要性の判断と報告を主体的に行うことが複数回あったと、養護教諭より報告があった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.6**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・他者から見た自分の様子を知り、自分の行動の特徴に気づく  ・状況に応じた適切な声量調節ができるようになる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ８月～11月 | |
| ・真面目で素直な性格で、努力家である  ・周囲の人と積極的に関わる  ・他者の状況や心情を慮ることができず、自分中心な考えや発言になりがちである  ・状況に応じた声量の調節が難しい | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整 | | | |
| コミュニケーション | | | 状況に応じたコミュニケーション | | | |
| 本事例のキーワード | | セルフモニタリング　声量調整 | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・動画の撮影は、日や場所、会話の相手などを変えて、できるだけ多くの活動の様子を記録しておく  ・撮影することについて、通常の学級やクラブ活動等の担当教員とあらかじめ調整しておく  **②について**  ・声の大きさだけでなく、他者と話す時の視線、姿勢、身ぶりなどにも気づいた点がないか確認する | | | | ・自分の姿を客観的に見ることで、声の大きさだけでなく、不自然な動きや注意散漫な様子など、自分の無意識の行動にも気がつくことができた |
|  |  | |
| **自己理解を深める** | | |
| **①他者から見た自分を知る（セルフモニタリング）**  ・自分が会話しているさまざまな場面を動画撮影し、客観的に見る  **②自分のコミュニケーションの特徴を理解する**  ・動画を見て気づいたことをまとめ、良い点、改善したい点を明らかにする | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分の声量を知る機会を設ける  ・客観的・視覚的に理解できるワークシートを用意する |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①②について**  ・自分が普段よく使っている声量レベルが表で示すとどのレベルなのか確認させる  ・具体的な生活場面を想定しやすいよう、イラストや写真など、視覚的な教材を複数用意しておく  ・声のレベルを判断する際の手がかりとして、周囲の音や人の声の大きさ、場所の広さ、相手との距離などを意識させる | | | | ・自分のふだんの声量レベルを認識し、その声量を基準に「少し小さめ」「かなり小さめ」と意識しながら場面に合わせて考えることができた。  ・生活場面を想定したロールプレイをする中で、「場の空気を乱さないことが大切！」と周囲に配慮して判断することの大切さに自ら気づくことができた |
|  |  | |
| **声量を可視化し、体得する** | | |
| **①場面に応じた適切な声量の理解**  ・具体的な生活場面とそれに応じた声の大きさをものさしで示す  *【参考Ａ】*  ・日常生活の様々な場面を想定し、どのレベルがふさわしいかを考える  **②声量をレベル別に練習**  ・ものさし表の各レベルを意識しながら、声量調節を練習する  ・実際の場面を想定し、ロールプレイを行う | | |
| 【第三段階に向けて】  ・ロールプレイでの練習を通常の学級等で活用できるよう、実践場面を用意する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・グループの人数に応じた声量で話せているか確認させる  ・他のメンバーからは、良かった点、改善点の両面からの意見をもらうようにする  **②について**  ・生徒の取組みを授業担当者等に周知して、通常の学級における様子を観察する際のポイントを示しておき、本人や通級担当者へフィードバックしてもらう | | | | ・「他者から見た自分」を意識し、「世間で不快と思われる行動をしないために･･･」と、インターネット等で多くの人が不快に思う行動を自主的に調べるなど、他者の視点を知ろうとする姿勢が見られるようになった  ・声の大きさについては、「声のものさし」を意識しながら、継続して練習に取り組んでいく |
|  |  | |
| **日常場面での実践** | | |
| **①グループワークⅠ**（２人～４人）  〇通級指導教室での実践  ・グループで話し合いをする場面を作り、他の生徒からアドバイスやフィードバックをもらう  **②グループワークⅡ**  〇通常の学級での実践  ・ペアワーク、グループワーク、一斉授業など、それぞれの場面に応じて適切な声量を用いる | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・保健室に入室する際、他の利用生徒のことを意識し、以前のような大きな声ではなく小さな声で養護教諭と会話することができた  ・他者の視点を意識するようになったことで、声の大きさだけではなく、「授業中の衝動的な発言が減ってきた」と授業担当教員より報告があった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.7**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・その場の状況に左右されずに、落ち着いて授業に取り組むことができる  ・気持ちが落ち着かないときは、自ら授業担当者等にそのことを伝えられるようになる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ３年 | | | 指導時期 | ４月～10月 | |
| ・「周りの生徒が怖い、嫌だ」などの独り言を大きな声で言うことがある  ・感情のコントロールが得意でなく、不快や怒りの感情を暴言や暴力で表してしまう  ・普段は、相手の年齢に関係なく誰に対しても言葉遣いが丁寧である  ・わからないことは必ず確認し、手順を守って物事を進めることができる  ・本人と保護者で希望する卒業後の進路が異なっており、ストレスを感じている | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 情緒の安定 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整 | | | |
| 身体の動き | | | 姿勢の運動・動作の基本的技能 | | | |
| 本事例のキーワード | | 構造化　身体と心の関係　体力　集中力　コミュニケーション | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・人によって感じ方に違いがあることに気づかせる  ・自分が思う感じ方と一般的な定義が異なっている場合でも、合致させる必要があるのではなく、違いがあるのを知ることが大事だと伝える  **②について**  ・暴力や暴言に結びつく「怒り」の具体的な原因を意識させるために、学校生活での場面と気分（ストレス）との関連性を教員と共有する | | | | ・感情の定義がさまざまであることを認識できた  ・暴言や暴力が出てしまう「怒り」のラインを感じ取り、その場面になったときにはどう対処すべきかを判断する必要があることを理解できた |
|  |  | |
| **自己理解を深める** | | |
| **①自分と他者の感情を比較する**  ・さまざまな感情について、自分が認識している感じ方と、一般的な定義とを比較する*【参考Ａ】*  **②怒りを感じる場面を認識する**  ・本人にとって最もコントロールしにくい感情である「怒り」の原因となる事柄をいくつか挙げる。  ・どういう「怒り」のときに暴言や暴力として表れてしまうのか考える | | |
| 【第二段階に向けて】  ・感情をコントロールする力を育成するために、呼吸や身体の動かし方からアプローチすることとし、体幹・筋力トレーニングを実施する |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①②について**  ・できているところはその場ですぐ褒め、集中力を切らさないようにする  ・１回のトレーニングには複数種目を組み入れ、合間に短い休憩をはさむことで、うまくできなくても切り替えてリスタートできる展開にする  ・トレーニング内容は記録させ、クリアした証明となることを伝える  **③について**  ・（下層）呼吸→感覚→動き（姿勢）→言葉→学習・コミュニケーション（上層）へと、順に土台を固めていくことを意識させる | | | | ・うまくできなかったときにも気持ちを切り替えて、再度取り組むことができた  ・呼吸や体の動きが安定したことで、気持ちにも落ち着きが見られるようになった  ・本人が自分の変化をあまり実感できていないことが課題である |
|  |  | |
| **思い通りに体を動かすことができる** | | |
| **①体幹トレーニング**  ・バランスボール、ラダー、ミニハードル等を用い、自分の体の使い方を知る*【参考Ｂ】*  **②筋力トレーニング**  ・体の各部位の力の入れ加減、強弱の感覚を学ぶ  **③自分の体を意識する**  ・自分の体に意識を集中することで、体幹が安定し、思い通りに体を動かせることに気づく | | |
| 【第三段階に向けて】  ・怒りを感じたときの対応が、以前と比べてどう変化しているか確認できるよう、様々な場面を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・生徒自身の振り返りに加え、教員から見た様子もフィードバックする  ・最適な対応ができていない場合、どうすればよかったか、本人が納得できる答えを出せるよう、教員が援助する  **②について**  ・他者への説明方法は様々なパターンを経験させるが、可能な限り自分で対応してみるよう促す | | | | ・自分が困難を感じたときに、「その場を立ち去る」、「自分が落ち着ける作業を行う」などの対応ができるようになった  ・最適な対応ができなかったのは、その場面とは直接関係ない他の要因による負担やストレスがかかっているときであった  ・今後も、細かな行動観察や環境調整を継続することで、生徒が目標をより確実に達成できると考える |
|  |  | |
| **困難に対し、最適な対応ができる** | | |
| **①感情のコントロールを意識して、最適な対応を選択することができる**  ・通常の学級において、忘れ物をした、思い通りの成績を残せなかった、他人からからかわれたなどの場面での対応を振り返る  **②困難を他者に説明する**  ・自分一人で対応できないときに、他者に困難な状況を説明する | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・怒りを感じる場面で、以前のように暴言や暴力でストレスを発散してその場を乗り切ろうとすることが激減した  ・トラブルが起こったときの状況を、自分自身で振り返り、教員に正確に説明することができるようになった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.8**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・自己理解を深め、自分の良さや得意なことに気づく  ・作業の手順などを他者にわかりやすく説明したり、主体的に声かけしたりできるようになる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | ４月～10月 | |
| ・人前ではうつむいていることが多く、周りに聞こえるような声量で話すことはほとんどない  ・クラスメイトに話しかけられても無反応なことが多い  ・一人でゲームをしたり音楽を聴いたりしている事が多く、他者と関わりを持とうとしない  ・気候に応じた服装をせず、１年中半袖のカッターシャツを着用している  ・空間認知能力が極めて高く、物の配置等は先のことを考えて整理することができる  ・手先が器用で細かい作業や集中力を必要とする作業が得意である | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 集団への参加の基礎 | | | |
| コミュニケーション | | | 状況に応じたコミュニケーション | | | |
| 本事例のキーワード | | 構造化　集中力　コミュニケーション | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・自分が不安になる場所や人をわかりやすくするため、図式化できるワークシートを用意する  **③について**  ・生徒自身が気づいていなかった良さも引き出せるよう、様々な分野での挑戦を体験させる | | | | ・状況を図式化することによって視覚的に自分の不安要素を知り、自己理解を深めることができた  ・体を動かすことや指先が器用という自分の良さに気づいた  ・他者とコミュニケーションがとれないことに対して、困難さを感じていないことが課題である |
|  |  | |
| **自己理解を深める** | | |
| **①自分を分析する**  ・安心できる場所や人、不安に感じる場所や人などについて考える  **②自分が不安になる状況を整理する**  ・いつ、どの様な状況だと不安に感じるようになるのか、具体的な場面をあげて整理する*【参考Ａ】*  **③自分の得意なことを知る**  ・様々な体験を通し、自分の得意なものを見つける | | |
| 【第二段階に向けて】  ・通級指導教室の場で、他者とコミュニケーションを図る機会を設ける |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・自分から声をかけることが出来たときはすぐにその場で褒める  ・迷っているようであれば、どんな声かけの方法があるか具体例を示す  **②について**  ・本人が話しやすい学年の教員に教えられる役割を依頼し、通級指導教室で編み方を説明させる  ・あらかじめ協力教員には、質問してほしいタイミングなどを伝える | | | | ・初めは、わからない時はどのように声をかけたらよいか困惑していたが、声かけの方法を伝えると自ら質問できるようになった  ・初めて人に教えるということに緊張していたが、わかりやすく説明するために自分の作品を隣に持っていくなど、伝え方を工夫できた |
|  |  | |
| **コミュニケーションスキルを学ぶ** | | |
| **①実践Ⅰ「パラコードを編む」**  *【参考Ｂ】*  ・パラコードを使った作品作りを実践し、やり方がわからないところを自分から質問する  **②実践Ⅱ「パラコードの編み方を説明する①」**  ・自分が安心して話せる教員に、パラコードの編み方を説明する | | |
| 【第三段階に向けて】  ・通級指導教室以外の場で、他者とのコミュニケーション機会を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・教室の前に出て注目を浴びながら説明することは難易度が高いため、生徒が編んでいる指先をカメラで投影し、授業担当教員が説明するという、スモールステップで実践する  ・編み方がわからなくなったクラスメイトに対して個別に説明をするという場面を設定する  ・必要に応じて、困っているクラスメイトを指し示し、側へ行って教えてあげるよう促す | | | | ・今まで話したことがないクラスメイトとも会話することができた  ・クラスメイトから編み方や教え方を褒められることによって、自信をもつことができた  ・次へのステップアップとして、11月に行われる文化祭で、本人にとって最も不得意である、面識のない人に編み方を伝えることに挑戦する機会を設ける |
|  |  | |
| **コミュニケーションスキルを活用する** | | |
| **①実践Ⅲ「パラコードの編み方を説明する②」**  ・通常の学級の授業「海洋実習」において、講師としてクラスメイトにパラコードの編み方を説明する  ・全体への説明の後、質問があった場合には個別に対応する | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・成功体験を積んだことで、自信がついた様子が見られた  ・コミュニケーションを図る場面では、相手の表情を見て話すことが出来るようになってきた  ・通常の学級の授業においても、発問に対して聞こえる声量で積極的に答えることが出来るようになったと担当教員から報告があった  ・自分の意見を伝えようとする意識が見られるようになったと担任から報告があった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.9**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・コミュニケーション場面での自分の傾向を知り、自分の良いところに気づく  ・自分の意見を伝えることができるようになる | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | ４月～９月 | |
| ・学校の活動には積極的に参加するが、コミュニケーションに苦手意識があるために必要なやり取りができず、集団内での役割が十分に果たせないことがある  ・自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 人間関係の形成 | | | 他者とのかかわりの基礎 | | | |
| コミュニケーション | | | 言語の受容と表出 | | | |
| 本事例のキーワード | | 自己表出　自己肯定感　集団　グループワーク | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・対人場面での自分の傾向を客観的に見ることができるように、ソーシャルスキルや認知傾向といった観点で自分を振り返ることができるチェックリストを用意する  **②③について**  ・対人場面における自分の傾向に、体験を通して気づくことができるよう、グループワーク終了後に、「行動に対する気づき」「感情に対する気づき」を出し合う | | | | ・チェックリストの結果や、グループワークの中で、「人に対する信頼感が低い」、「期待される行動は分かっているが行動に移すことができない」といった自分の行動や考え方の傾向を整理することができた  ・グループワークでは、自分の意見があっても黙って頷くことが多く、自分の意見や気持ちを表出することが課題として上がった |
|  |  | |
| **対人場面での自分の傾向に気付く** | | |
| **①行動傾向・認知傾向を知る**  ・自己理解のためのチェックリスト  **②グループワークⅠ**（２人～４人）  ・他者と協力して一つの絵を描く  *【参考Ａ】*  **③グループワークⅡ**（２人～４人）  ・コミュニケーションゲーム | | |
| 【第二段階に向けて】  ・「自分のよさ」に気づき、自信を持つ  ・自分の意見を表出し、それが認められる経験を増やす |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①②について**  ・「聞き上手であること」に自信を持つことができるように、「聞き手の重要性」が実感できるワークを用意するとともに、ワークの最中やワーク後の振り返りの際に「聞き手の重要性」を言語化する  ・発言への意欲を養うため、発言内容の良い部分をフィードバックするよう努める | | | | ・「コミュニケーションは、話すことだけでなく、上手に聞くことも大切であることがわかった」という発言があった  ・グループの中で、自身の発言内容が他者に認められ、肯定的に評価される経験が重なるにつれて、自ら発言することが増えた。 |
|  |  | |
| **自分の良さに自信を持つことができ**  **る** | | |
| **①グループワークⅢ**（２人～４人）  ○コンセンサスゲーム*【参考Ｂ】*  ・価値観の違いを知る  ・集団における合意形成の経験  **②グループワークⅣ**（２人～４人）  ○意思伝達ワーク*【参考Ｃ】* | | |
| 【第三段階に向けて】  ・他者とのコミュニケーションにおいて「聞き上手」であることを意識しつつ、自身も発言することを楽しむことができるような機会を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・「聞き上手」な面が発揮されるように、本人が共感をしやすいテーマを設定する  **②について**  ・自信を持って、自分の強みを説明できるよう、ワークの中で見つけた「自分のよいところ」や「仲間の良いところ」を言語化する | | | | ・自分の良いところを客観的に分析し、言語化することが出来た  ・グループで話し合う場面では、他者の発言を受け入れながら自分の意見を言うことができた |
|  |  | |
| **自分の良さを活用する** | | |
| **①グループワークⅤ**（２人～４人）  ・テーマに沿ったフリートーク  **②グループワークⅥ**（２人～４人）  ・互いの「良いところ」探し | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・10月以降、修学旅行のグループ活動をどうするかについて話し合った際には、自分のやりたいことをグループ内で発言し、仲間と意見を調整している様子が見られた  ・11月に行った三者懇談では、「修学旅行について班で話し合うのがすごく楽しい。今まで経験したことがない」という発言があった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.10**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | 自分の苦手なことを知り、周りに援助を求めることができる | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | 指導時期 | ６月～12月 | |
| ・新しい環境になれるのに時間がかかる  ・感情をコントロールするのが苦手である  ・他者との関わりに自信がなく、必要以上に心配してしまう | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | |
| 健康の保持 | | | 障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること | | |
| 人間関係の形成 | | | 自己の理解と行動の調整に関すること | | |
| 本事例のキーワード | | 自己理解　ヘルプメッセージ　合理的配慮 | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | 成果・課題・次段階にむけた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・教員も生徒と同じワークシートを  使用して作業を行い、生徒が手順をイメージしやすいようにする  ・通常の学級での支援の一助とするため、クラス担任と成果物を共有する | | | ・気分が高揚した時や、焦ったときに感情のコントロールが難しくなるが、「友人から声をかけてもらえると気分が落ち着いた気がする」と気づきを言葉にした  ・「声をかけてもらうためには、自分のことを友人に知ってもらうことが必要である」と述べた |
|  |  | |
| **これまでの「自分」を知る** | | |
| **①「わたしのトリセツ」**  ・自画像を描いたワークシートに、  「自分を表すキーワード」を記入  する*【参考Ａ】*  **②「カラーパワーグラフ」***【参考Ｂ】*  ・年表が記載されたワークシートを  用いて、生まれてから今までの人生における気分の浮き沈みを、折れ線グラフで表す  ・補足説明として、気になる出来事等  をキーワードで加筆する | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分のことを言葉で説明する  ・教員以外の者（クラスの友人等）に  自分の意見を表出する機会を設ける |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・本人が話しやすいと感じる友人を  含む数人を、通級指導教室に招く  ・「気分が高揚した時の感情のコント  ロール」について、後日の振り返りの際に、自分の様子を客観的にみることができるように、ビデオカメラ等で記録しておく  **②について**  ・本人だけでなく、参加者全員が発言するように促し、本人が発話しやすい雰囲気をつくる | | | ・ジェスチャーゲームでは、感情のコントロールができない状況は発生しなかった  ・友人に自分の苦手なことを伝え、友人から肯定的な言葉を受けたことで、「安心できた」と述べた |
|  |  | |
| **身近な人と接する「自分」を知る** | | |
| **①集団における「自分」を知る**  ○ジェスチャーゲーム（5人～10人）  ・集団で盛り上がる状況において、  自分がどのような様子（気分）に  なるのかを知る  **②身近な人に「自分」を語る**  ・クラスやサークルの友人を相手に、  「自分」を説明する機会を設ける | | |
| 【第三段階に向けて】  ・身近な人に自分を伝えることができたため、初対面の人にも自分のことを伝える機会を設ける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・「他者に見せること」を意識した表現となるよう促す  ・第一段階で作成した「わたしのトリセツ」と比較して、通級指導開始時点の自分とのちがいを意識させる  **②について**  ・次年度の新クラスや校外学習での  挨拶など、今後、本人が経験する機会を想定して場面設定する | | | ・通級による指導の開始時点の自分と比べて、「できること」、「やりたいこと」、「苦手なこと」を、明確かつ、より多く説明することができた  ・伝える相手（新年度のクラスの友人や、校外実習先の担当者）によって、「伝えるべき内容」や、「伝え方」に違いがあることに気づいた |
|  |  | |
| **初めての環境で「自分」を伝える** | | |
| **①「わたしのトリセツ」の追記**  ・第一段階で作成した「わたしのトリ  セツ」に、自分の「良いところ」や「苦手なこと」、「困ったときに助けてほしいこと」等を追記する  **②「トリセツカードの活用」**  ・カードを活用してもちあじを伝えながら、配慮してほしいことを相手に説明する | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | |
| ・対象生徒は、これまでの失敗経験から自分の特性について他者に知られたくないと言ってきた。しかし、失敗を防ぐためには周囲の協力が必要だと考えて校内外の発表活動に参加し、自身の特性や経験について他者に語るようになった  ・他者に開示することで適切な支援が受けられることを学び、自分について他者に伝える意欲が高まった。段階を経るに連れて本人が「自分のことを知ってほしい」対象として列挙する人が身近な人からそうでないひとへと拡がった | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.11**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | ・行動に優先順位をつける際の基準を意識できる  ・自分に合ったスケジュール管理の方法を見つけて継続する | | | | | | |
| 通級による指導  開始時における  生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | １０月～３月 | |
| ・言葉を字義通りに受け取ってしまう傾向があり、相手の意図や真意を汲み取れない時がある  ・持ち物、時間、スケジュールの管理が難しい。自分の状況に即したスケジュールを組むことが苦手で、生活がうまく回らなくなることがある  ・各教科の定期考査の結果からは、学習上のつまずきはみられない | | | | | | |
| 関連する  自立活動の内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 健康の保持 | | | 生活のリズムや生活習慣の形成 | | | |
| 心理的な安定 | | | 状況の理解と変化への対応 | | | |
| 本事例のキーワード | | 優先順位　スケジュール管理　忘れ物 | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①②について**  ・自分が関わっている場と、そこでの行動を個々に考えるのではなく、１日のつながりの中で捉えるよう示す  **③について**  ・授業に必要なものや提出物の有無  を明記し、できていることと、できていないことを明確にすることで、自分の傾向に気づくよう促す | | | | ・24時間テーブルにより、１日の予定をつめこみすぎていることに気づき、今の自分に必要なことを取捨選択する必要を自覚できた  ・授業に必要なものを書き出すこと  により、「忘れ物が多い教科」、「忘れ物がない教科」があり、その原因を考察することができた |
|  |  | |
| **生活の可視化** | | |
| **①自分関連図**  ・自分がつながっている社会を図式  化する*【参考Ａ】*  **②１日（24時間）の行動**  ・行動に費やす時間の確認  ・24時間テーブルの作成*【参考Ｂ】*  **③授業に必要なものを書き出そう**  ・時間割表に各教科の授業で必要なもの（及び課題の有無）を記入する  *【参考Ｃ】* | | |
| 【第二段階に向けて】  ・自分にとって実行可能なスケジュールを立てることや、スケジュール管理の方法を考えることが、これからの学習課題である |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・情報の整理の仕方について、様々な方法があることを知るために、グループ学習で行う  **②について**  ・日常生活で実際にスケジュールを立てる力に繋げるために、実例を用いてスケジュールを立てる練習を行う | | | | ・「自分は目先のことに囚われてしまいがちである」という気づきを得ることができた  ・「全体と限界を見て、すべき目的を見失わないことが大切である」という発言があった |
|  |  | |
| **スケジュールを立てるコツを知る** | | |
| **①グループワーク**（２人～４人）  ・情報整理ワーク  ・手順を考えるワーク*【参考Ｄ】*  **②スケジュール作りのワーク**  ・アルバイトを辞めるまで  ・受験カレンダー作り  ・冬休みの旅行の行程 | | |
| 【第三段階に向けて】  ・様々なツールを試して、自分に合ったスケジュール管理の方法を考え、実践する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | **①について**  ・スケジュール管理の方法について、いくつか例示し、生徒が興味を示した方法で取組む  **②について**  ・提出物の期限を守るために、課題内容と提出期限という２つの要素を管理するのだということを意識させる | | | | ・「スケジュール帳よりスマートフォンのアプリで通知機能を活用する方が自分に合う」という発言があった  ・冬休みなど長期休業中に複数の課題が集中すると、管理しきれなくなってしまったため、もう一度、管理方法の確認や整理をして使いこなしていくのが今後の課題である |
|  |  | |
| **スケジュールの管理方法を決めて実践する** | | |
| **①様々なスケジュール管理ツールを使ってみる**  **②提出物を期限どおりに提出するためのアイディアを出す** | | |
| **【通級による指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・スケジュールの詰め込み過ぎで回らなくなっていた日常であったが、行動の取捨選択を考えられるようになったこと  で、余裕をもって毎日を送ることができるようになった  ・スケジュールを管理することで、課題などの提出をあきらめずに最後までやり遂げようとする意欲が見られるように  なった | | | | | | | | |

**通級による指導実践事例　高等学校No.12**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個別の指導計画に  おける短期目標 | | 身近な友達や教員に自分の気持ちを示す | | | | | | |
| 通級指導開始時に  おける生徒の状況 | | 学　年 | ２年 | | | 指導時期 | ２学期 | |
| ・場面ごとの自分の気持ちを振り返ってまとめることが難しく、感想を述べたり、作文を書いたりすることに苦手意識がある  ・他者とのコミュニケーションが苦手で、自分から関わりを求めることが難しいが、集団の中では、自分のペースで過ごすことができている  ・卒業後は４年制大学への進学を希望している | | | | | | |
| 関連する自立活動の  内容 | | 区　　分 | | | 内　　容 | | | |
| 健康の保持 | | | 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること | | | |
| 人間関係の形成 | | | 他者とのかかわりの基礎に関すること | | | |
| 本事例のキーワード | | コミュニケーション　他者とのかかわり | | | | | | |
| **【指導の具体的な様子】** | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | 指導上の留意点（場面・内容） | | | | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | | **①について**  ・感情を表すキーワードは生徒が考えたものを使う  **①②について**  ・教員も生徒と一緒に出来事の連想に取組む  ・生徒が発言するときは、教員は傾聴し、生徒の言葉を肯定的に受け止めるように心がける  ・ワークシートに生徒のことばを書き出し、生徒がことばに詰まったときには教員が質問を投げかける形式で対話を進める | | | | ・①について、感情を表すキーワードがなかなか思い浮かばなかった  ・「楽しい」「悲しい」「悔しい」などのキーワードをカードに書いて選択させると、関連する出来事を具体的に話すことができた  ・②について、自分が困っているときに友達が関わってくれたことに気づき「うれしかった」と自分の気持ちを述べた |
|  |  | |
| **感情を頼りに出来事を整理する** | | |
| **①「感情」から出来事を振り返る**  ・感情を表す言葉をもとに、学校生活における出来事を連想する  ・出来事に関わりのあった友達や教員を連想する  **②日常生活での他者との関わりに気づく**  ・教員との対話を通して、①で整理した出来事で「今、落ち着いて考えたら気づいたこと」を考える | | |
| 【第二段階に向けて】  ・生徒の「困っているときに友達が関わってくれた」という気づきを捉え、他者に気持ちを伝えることを見すえて指導を行う |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | | **①について**  ・クラスの授業や部活動等での周りの生徒とのかかわりを、通常学級の授業担当者と連携して把握する  ・本人のことばを基本に、教員が普段の様子について補足しながらワークシートに書き出す  **②について**  ・これまでの学校生活で困ったことを思い出して挙げる  ・ヘルプメッセージの発し方について、授業の場面や、人数規模などをふまえた対応方法を考える | | | | ・「困ったこと」について考える過程で「スケジュール管理が苦手で、授業場所の変更や時間割の変更で戸惑うことが多い」と述べる  　（通級による指導の時間にも遅刻したことが複数回あった）  ・「困ったときに助けてもらったら、きちんとお礼を言えるようにしたい」と述べる |
|  |  | |
| **身近な人間関係を把握する** | | |
| **①学校生活における友達とのかかわりを整理**  ・学校生活で、どのような場面に、どんな友達と関わっているのかを把握する  **②困ったときにはどうしたらいいかを考える**  ・困ったことがあって戸惑ったときに、どんなヘルプメッセージを発するとよいのかを考える | | |
| 【第三段階に向けて】  ・通常の学級での授業等で、困ったときにヘルプメッセージ発することができているかを確認する |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | | ・本人が苦手に思っていることや、通級による指導をとおして学習した「ヘルプメッセージの発し方」を学年団の教員で共有する  ・通常の学級や部活動等での生徒の様子を担任・授業担当者と通級による指導担当教員で共有する  ・通常の学級での出来事等を振り返り、できたことや、次の機会に頑張ることをワークシートに記録する | | | | ・困ったことがあったときに助けてくれた友達に対して、「ありがとう」と言葉で伝えることができた  ・本指導を通して、生徒が「スケジュール管理が苦手」ということに気づきがあったため、今後の課題として検討する |
|  |  | |
| **相手に気持ちや考えを伝える** | | |
| ・通常の学級における出来事を「誰と」「何をして」「どんな気持ちになって」「どのように伝えた」という観点で振り返る | | |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** | | | | | | | | |
| ・本人もがんばれたという達成感を得ている。“自分から”友達のところへ昼食を食べに行くことができたといった自発的な行動に繋がってきている  ・通常の学級や、部活動担当者、周囲の友達から「以前よりも笑顔や反応が増えた」という報告があった | | | | | | | | |